祝福の約束

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-10-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, 哲夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/24740

「祝福の約束」

宗 教 部 長 佐々木 哲 夫

ガラテヤ三章一六節

創世記一三章一四節〜一六節

*

最初のクリスマスは、二千年ほど昔、丁度、ローマ皇帝アウグストゥスが、ユダヤの民に住民登録をするよう命じた頃の事です。住民登録は、郷里で行なわなければなりません。マリアとヨセフも、その例外者ではありませんでした。二人は、北のガリラヤの町ナザレから旅立ち、中央高地の縦断ルートか、ヨルダン川沿いのルートか、いずれの道を通ったかは、定かではありませんが、南に百キロメートルほど下り、エルサレムを経由し、さらに、そこから十キロほど南に位置するベツレヘムへと移動したのです。ベツレヘムが、彼らの郷里であり、住民登録の場所だったからです。そこに滞在していた時、マリアは、月が満ち、初子を産みました。イエス・キリストの誕生です。乳飲み子は、家畜の飼い葉桶に寝かされました。住民登録の人々で宿屋が混雑していたからです。これが、クリスマスの原風景でした。

さて、聖書は、イエス・キリストの誕生を祝うために、遠くの場所から、輝く星に導かれて、学者たちが、また、近くの場合から、天使の言葉に導かれて、羊飼いたちが、やって来たとして記してあります。前者の学者たちは、バビロニアの天文学に関係していた者たちだったのかもしれない。黄金・乳香・没薬を贈り物として携えてきたのですから、位の高い人たちと思われれます。他方、羊飼いたちは、誕生のプレゼントを持ち合わせていません。彼らは、賤しめられていた者たち、まったく貧しい者たちでした。何も持っていませんでしたが、彼らは、イエス・キリストの誕生を喜び、神をあがめ、賛美の声を捧げたのです。最初のクリスマスは、さまざまな人々に祝福された、心温まる出来事でした。しかし、この出来事は、歴史という時間の流れの中に埋没しませんでした。紀元五二五年、ローマの修道院長ディオニシウス・エクシグウスは、この男子の誕生を境に、歴史を二分したのです。即ち、紀元前（BCⅡキリスト以前）と紀元後（ADⅡ主の年）に歴史を分けたのです。クリスマスの出来事は、歴史の節目とされたのです。換言するならば、新しい時代の幕開けの瞬間とされたのです。

*
*

では、イエス・キリストの誕生は、歴史を分断する出来事だったのでしょか。いいえ、そうではありません。そうではなく、むしろ、古い時代と新しい時代を結びつける出来事でした。聖書は次のように告げています。

ガラテヤ三章一六節

16 ところで、アブラハムとその子孫しまたんに対してたいし約束が告げられましたが、その際、多くの人を指して「子孫たちとに」とは言われず、一人の人を指して「あなたの子孫とに」と言われています。この「子孫」とは、キリストのことです。

聖書は、イエス・キリストを、「神の約束を相続する者」と表現しています。相続ですから、それは、おおよそ、親から引き継ぐということです。しかし、時として、相続するものが、親の親、そして、またその親というように、先祖代々から受け継がれてきたもの場合があります。イエス・キリストの相続したものの「神の約束」とは、それでした。かなり古い時代のものでした。古い時代とは、例えば、イスラエル民族がバビロン捕囚から戻ってきた紀元前六世紀の指導者エズラの時代ではありません。また、アッシリア帝国の侵略に脅える民を鼓舞する紀元前八世紀の預言者イザヤの時代でもありません。さらには、奴隷の地エジプトから脱出する民を導いた紀元前十三世紀の指導者モーセの時代でもありません。それよりも昔、後の時代に信仰の父と呼ばれたアブラハムの時代でした。アブラハムの時代から、「神の約束」が、イエス・キリストまで、延々と相続されてきたのです。そのように相続されてきた「神の約束」とは、いったい、どのような「約束」だったのでしょうか。アブラハムの時代まで、タイムスリップしたいと思えます。

さて、それは、聖書の最初の書物「創世記」に記録されています。アブラハムがネゲブと呼ばれる荒れ地に天幕を張って生活していた時代です。甥のロトが一族から離れて、あの邪悪な町ソドムの方向に移住した時のことです。アブラハム（当時の名前はアブラムでした）に神は約束したのです。

創世記一三章一四節〜一六節

14 「さあ、目を上げて、あなたがいる場所から東西南北を見渡しなさい。15 見えるかぎりの土地をすべて、わたしは永久にあなたとあなたの子孫に与える。16 あなたの子孫を大地の砂粒のようにする。大地の砂粒が数えきれないように、あなたの子孫も数えきれないであろう。」

この「土地を与える」との表現は、羊や牛が、その地の草を食んで大きな群れになるということの意味しています。即ち、財産が増えるとの約束でした。もう一つの約束も語られています。「あなたの子孫を大地の砂粒のようにする」というのです。換言するならば、家族が増える。一族の数が増える。国民の数が増える。大きな民へと成長するとの意味です。この二つの約束が、神からア

ブラハムに与えられたのです。それは、祝福の約束でした。神の言葉は、必ず、現実のものとされます。財産が増え、家族が増える。この意味において、アブラハムは、祝福されたのです。ところで、「あなたの子孫」との表現が、単数形であることに、新約聖書は、注目しています。そして、「あなたの子孫」をイエス・キリストであると理解しています。新約聖書は、告げます。

一人の人を指して「あなたの子孫とに」と言われています。この「子孫」とは、キリストのことです。

「神の約束」は、即ち、長い年月を経たイエス・キリストに与えられたものだということです。

さて、先ほど、紀元六世紀の修道院長ディオニシウス・エクシグウスが、クリスマスのお出来事や境に、歴史を二分したこと、また、それが、分断ではなく、結合の出来事だったことを話しました。クリスマスは、実に、アブラハムへの祝福の約束が、もう一人の相続人、イエス・キリストへ伝えられた出来事だったのです。それゆえ、クリスマスは、歴史の節目であると同時に、新しい時代の幕開けを告げるものでした。この新しい時代について、同じくガラテヤの信徒への手紙は、次のように記しています。

三章二九節

29 あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラハムの子孫しごであり、約束やくそくによる相続人そうぞくじんです。

イエス・キリストの相続した約束が、イエス・キリストにある者へとさらに継承されてゆくといふのです。そして、その祝福の約束は、それぞれの相続人において、それぞれの時代において、ふさわしく結実するといふのです。

今年もクリスマスがめぐってきました。イエス・キリストに伝えられた祝福の約束は、今日の私たちにも付託されています。そのことを心におさめ、一緒に、西暦二〇〇六年のクリスマスをお祝いしたいと思います。